

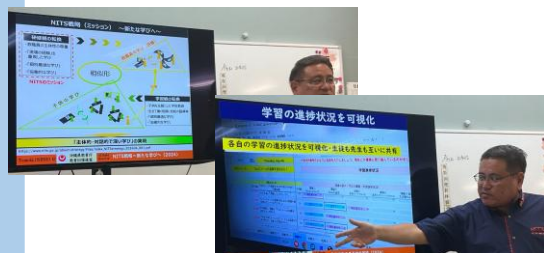
リーディングDXスクール事業【実践事例】

沖縄県立本部高等学校(沖縄県)【指定校】

【取組内容】新しい学びの挑戦

①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

Ⅰ 学習期 学校DX戦略アドバイザーによる職員の学び



単線型の授業

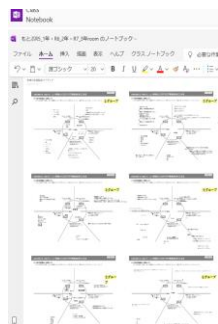
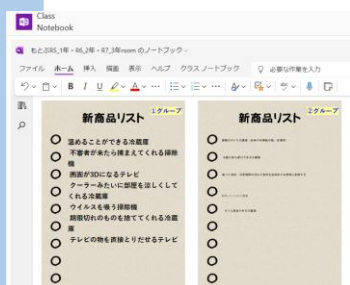
「一斉学習」
(いままの学習)

複線型の授業

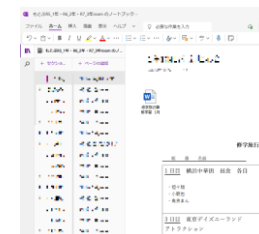
「個別最適な学び」
「協働的な学び」目指す社会
多種多様化するキャリア形成
予測困難な社会への対応
個で無く集団で生き抜く力

研修後、新たな学び方が必要なことを学習。しかし、すぐに個の授業で活かすのは難しい。総探や行事などを利用して先生がお互いに協同しての学校内で教師が協力し合える授業で取り入れてみることを考える

Ⅱ 展開期 総合学習による学年団による展開

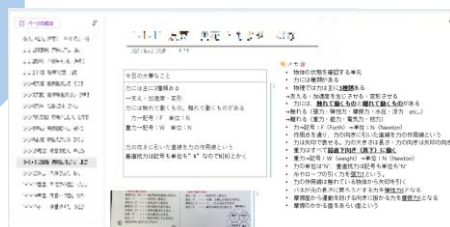


総合探究の時間でお互いの意見をクラウド上で共有しあうことで、これまでの口頭での生徒発表では、限られた時間内で限られた意見しか共有できてなかったものが、全生徒の意見を共有することができた。



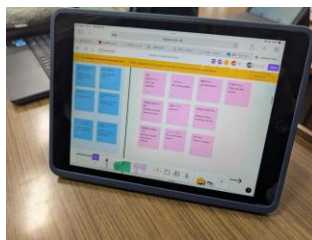
修学旅行の旅程表を他者参照することで個別最適化されたスケジュールを計画しやすくなった

Ⅲ 拡充期 学年団で計画されていた学びの効果をそれぞれの教科で拡充させる



理科

授業の振り返りにおいて他者参照を活用し、授業のポイントをお互いに確認しあう



英語

ブレインストーミングでは、他者の意見をもとにブラッシュアップが可能に

Ⅰ 学習期⇒Ⅱ 展開期⇒Ⅲ 拡充期
組織全体で、全体から個の授業に拡充させることで新しい学びに対する負担を軽減するような取り組みを行ってきた。